板絵着色遅の井伝説図

［指定年月日］昭和五七年一一月一日
［種別］有形民俗文化財（信仰）
［名称］板絵着色遅の井伝説図
［点数］一面
［所有者等］井草八幡宮
［所在地等］善福寺一―三三―一

板絵着色遅の井伝説図

上井草村の古名「遅の井」の地名伝説を図柄としたもので、上井草村の本橋氏が天保一一年（一八四〇）に奉納したものである。

桐板の竪はぎ、縦七六㎝、横一〇五㎝の画面に、弓で井戸を掘る源頼朝と傍で見守る二人の武将の姿を描いている。これは頼朝が奥州の藤原氏を討つために軍をおこし、この地に宿陣した際、飲水を得ようとして井戸を掘ったところ、水の出があまりにも遅かったので、以後この地を「遅の井」と名付けたという伝承に基づいている。

こういった英雄伝説は各地にあり、遅の井伝説もその一つだが、ここでは頼朝の創建と伝えられる井草八幡宮に板絵を奉納することによって、頼朝の威徳にあやかって作物の豊穣を祈願したものと思われる。

農業にとって水は最も大切なものである。その大切な水と英雄崇拝の信仰とがかたく結びついたこの板絵には、江戸時代の農民たちの切実な心情がよく表されている。地名伝説板絵として区内では数少ない遺例である。

【文化財所在地】